討論メモ６月　「熊の出没と森林の荒廃」

令和８年６月１６日
森田晃司

１．熊が人里に出没し、被害をもたらしています。様々な要因が重なり合っているようですが、根本的には森林の荒廃に原因があるようです。
森林荒廃の原因は何か、
荒廃はどんな弊害をもたらしているのか、
荒廃を止め、森林を有効活用する政策はないのか
につき森田より問題提起があった。（HP に掲載の資料参照）

２．続いて、出席者六名にて意見交換し、下記のごとき意見が出されました。

・大久保利通には農林業を国の基本とする考えがあったが、現在は軽視されているのではないか。
・明治初年には、東京に駒場農学校が設立されている。
・戦後は林野庁は農水省の一部となり、予算も、権限も縮小されているのではないか。
・戦後は工業に重きが置かれ、農林への関心が薄れた。
・農林業は GDP では小さいので、軽視されてきている。
・儲ければよいという風潮で、外材などにとってかわられた。
・学校でも一次産業の重要性をしっかり教育すべきだ。
・今のような風潮が続けば、農林業を大事にしてきた文化が継承されなくなる。
・森林従事者の高齢化、人手不足は深刻で、危機的状況にある。

・里山の復活運動などが起こっている。人々は危機に目覚めつつあるのではないか。
・環境、風土保全、安全保障などの総合的見地から、森林の保全がいかに重要か、論理的に組み立てていく必要がある。

・“山は海の恋人”という言葉があるが、山は陸だけでなく、海にとっても大切な存在だ。
・企業だけ儲かればよいという発想になっている。
・インドネシアなどから外材を輸入してきたが、インドネシアでも森林の破壊が進んでいる。
・科学技術はプラスの面だけを強調し、副作用を軽視する傾向がある。
・学校では、“もったいない”の節約精神をしっかり教えるべきだ。

・知床では大量に羆を殺しているが、惨い行為だ。

以上